

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和7年7月31日※1

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 東京テクニカルカレッジ	設置認可年月日 昭和62年3月27日	校長名 白井雅哲	所在地 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 (電話) 03-3360-8881																											
設置者名 学校法人小山学園	設立認可年月日 昭和49年10月17日	代表者名 山本 匡	所在地 〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16 (電話) 03-3360-8831																											
分野 工業	認定課程名 工業専門課程	認定学科名 IoT+AI科	専門士 令和6年文部科学省 告示	高度専門士 —																										
学科の目的	IoT・AI学科は、次世代のIT社会を支えるエンジニアを育成することを目的としています。この学科では、インターネットやデータ解析の分野で活躍するための基礎知識とスキルを身につけ、AI技術やIoT(モノのインターネット)の実践的な活用を学びます。また、最新のテクノロジーを駆使し、社会に貢献できるイノベティブな人材を育成することを目指しています。																													
認定年月日	令和7年 3月 24日																													
修業年限	昼夜 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間 1890時間	360時間	540時間	1530時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
60人	43人	35人	1人	10人	11人																									
学期制度	■1学期:4月1日から5月下旬の5週間 ■2学期:6月上旬から7月中旬の7週間 ■3学期:8月下旬から10月中旬の7週間 ■4学期:10月下旬から12月中旬の7週間 ■5学期:1月中旬から3月31日の7週間		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期末に実施する履修判定試験の点数によって評価を行う。科目によっては課題点等も考慮することがある。																										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬から4週間 ■冬季:12月下旬から3週間 ■春季:3月中旬から3週間 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	卒業にあつては履修時間表で定められた全ての履修科目の履修を、進級にあつては当該年度の全ての履修科目の履修を、条件とする。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習目標未達成者・欠席者に対する補講の実施 長期欠席者への個別指導、保護者への連絡、家庭訪問等を実施		課外活動	■課外活動の種類 学内行事学生スタッフ、学内カフェスタッフ  ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生) 情報通信業界(IoT エンジニア、AI エンジニア、Web エンジニア、インフラエンジニア、組込みエンジニア、システムエンジニア など) ■就職指導内容 1年各期末に全科合同で就職プログラムを実施 女子学生のための就職ガイダンスを実施 留学生のための就職ガイダンスを実施 各科にて、履歴書等の確認、模擬面接等を実施		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等  (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
■卒業生数: 15 人 ■就職希望者数: 12 人 ■就職者数: 12 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 80.0 % ■その他 ・進学者数:0人 ・その他:0人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 特になし																												

	(令和 6 年度卒業者に関する 令和7年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	<b>■中途退学者</b> 0 名 <b>■中退率</b> 0.0 % 令和6年4月1日時点において、在学者24名 (令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者24名 (令和7年3月31日卒業者を含む)		
	<b>■中途退学の主な理由</b>  <b>■中退防止・中退者支援のための取組</b> 中退防止を含む学生指導の窓口は、全てクラス担任が担っている。その上で、経済的困窮に関しては学務室が奨学金等の 斡旋を行うなどの対応を行い、心身の不調や家庭の事情に関しては、その内容に応じて科長や事務長、副校長が個別相談 を実施している。いずれの対応も、「学生指導記録データベース」によって情報を共有し、迅速で適切な対応を心掛けている。		
経済的支援 制度	<b>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</b> 特待生制度、後援会企業奨学金制度  <b>■専門実践教育給付： 未</b>		
第三者による 学校評価	<b>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</b> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)		
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://tec.ttc.ac.jp/departments/game-programming">https://tec.ttc.ac.jp/departments/game-programming</a>		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科における教育課程の編成においては、ゲームプログラミングの実務者として必要とされる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等もふまえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。このことを実現させるために、また、形骸化しがちな資格偏重教育に陥らないための教授法や教材開発のために、本科では、業界諸団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、上記(1)で掲げた基本方針を実現させるために、かねてより卒業生が在籍する企業等との間に「情報系高度教育研究会」を設け、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価にご協力を頂いてきた。この委員会は、本科の人材目標とカリキュラムの整合性の確認や、輩出した卒業生の業界での活動実態を把握することも目的の一つとしてきたが、今般、この「専門部会」を、職業実践専門課程の申請にあたって「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と命名変更し、あらたに教育活動基盤形成のための組織として位置付けることとした。

当委員会の使命は、これまで同様、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価であるが、今後はより企業との連携を前面に打ち出し、実習・演習科目において更なる充実を図ることとしている。なお、本委員会は、組織上は副校長の直下に組織され、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者などの外部委員の他、企画部部長、科長を内部委員として本科の教務関係の検討を行い、理事会への諮問をもってカリキュラムの変更等の承認を得る重要組織として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
後藤 英明	株式会社ネクストワン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
開原 裕一	株式会社ネクストワン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
経塚 真裕	ソフトビューベリオン株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
片山 善久	株式会社エフ・エム	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
阪上 誠	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
田中 正吾	ワンフットシーバス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
高堂 博司	ウイングレット・システム株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
岡山 義光	株式会社産業連携機構九州 / My-IoTコンソーシアム	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
ポール・リー	株式会社Terakoya.ai	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
北川 淳一郎	ヤフー株式会社 データサイエンティスト協会スキル定義委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
坂本 一憲	WillBooster株式会社 早稲田大学研究院客員准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	②
佐藤 周平	株式会社セラク	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
澤坂 智之	株式会社Artisan	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
高橋 善之	株式会社ETS	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
中山 典隆	東京商工会議所 中野支部 有限会社 イブシロン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①

杉山 司	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会/桔梗ICTパートナーズ株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
叶 修吾	株式会社博報堂プロダクツ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長/情報処理科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
多賀 大真	専門学校東京テクニカルカレッジ 学務室長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
呉石 義明	専門学校東京テクニカルカレッジ 情報処理科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
藤原 瑞卿	専門学校東京テクニカルカレッジ IoT+AI科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレッジ データサイエンス+AI科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
川辺伸司	専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
松沢 一徳	専門学校東京テクニカルカレッジ ゲームプログラミング科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

#### (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年次委員会を4月～8月期に一度、11月～3月期に一度の2回開催する。また、年度末に卒業研究・卒業制作を中心とした学習成果発表会に参加いただき、カリキュラムおよび学習目標の達成度を確認・評価いただく。なお、必要と認められる場合は臨時委員会を開催する。  
なお令和7年度実施日時(実施予定日時)は以下とする。

(開催日時)

第1回 令和7年 7月18日 15:00～17:00

第2回 令和7年12月 4日 15:00～17:00

#### (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和6年度に行われた2回の教育課程編成委員会にて、それぞれ以下の意見が委員より提出された。

- ・外国人留学生に向けた全学的なサポートが必要である点。
- ・課題探求型授業において与えるテーマを具体的にすべきである点。

以上の意見を受けて、下記の対応を行った。

- ・学校全体の留学生に向けた日本語の養成講座を設置した。
- ・課題探求型授業においてデータ分析やビジネスアイデアコンテストなど、目標が具体的となるようなテーマを設定した。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、教育活動の形骸化を防止するためには、まずは上記の教育課程編成委員会等において現在のカリキュラムや授業内容等をチェックして頂く事が必要であると考えているが、併せてその実施にあたっては企業からの協力が欠かせないと考えている。

具体的には、カリキュラムの中に企業連携科目を組み込み、その科目の前後の科目とも有機的に連携させ、入学から卒業に至る一連のプロセスの成果として表れるようにすべきと考えている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

プログラマーに求められる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等も踏まえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。

特に開発実習課題においては、できるだけ実務に近い条件となるように連携企業に条件をチェックしてもらい、助言をもらっている。また、課題成果においても定期的なチェックにより、段階的にチェックレベルを高目、実務レベルを意識したコメントをもらっている。学習成果を示すプレゼンテーションにも参加してもらいコメント・アドバイスを貰い、成果品の質の向上を計っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デバイス実習 1	1. 【校内】 企業等からの講師が全ての授業を主担当	ワンフットシーバス
デバイス実習 3	1. 【校内】 企業等からの講師が全ての授業を主担当	ワンフットシーバス
ネットワーク実習 2	1. 【校内】 企業等からの講師が全ての授業を主担当	株式会社シーピーエス

プラットフォーム 実習	1. 【校内】 企業等からの講師が全ての授業を主担当	プラットフォーム実習1では、IoT分野において重要なプラットフォーム技術を学びます。クラウドコンピューティングの基礎からAWS (Amazon Web Services) の具体的な活用方法までを実践的に学習することで、クラウドサービスを活用したIoTシステムの構築スキルを養います。また、学生が卒業後に即戦力	FLUFFY株式会社
データベース実習 1	1. 【校内】 企業等からの講師が全ての授業を主担当	データベース実習1では、IoTシステムで扱うデータを効率的に保存、管理、活用するためのデータベース技術を学びます。AWSを利用し、Amazon RDSを使ったリレーショナルデータベースの構築、操作、および活用方法を実践的に学習します。これにより、学生はデータベースの基本概念から高度な操作までを習得	FLUFFY株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校では、専門学校の教員には実務、学術、教授力の3つの要素が欠かせないと考えており、そのそれぞれの専門性を向上させるためには、現状の能力等を適切に評価し、改善点を明確にした上で、適宜研修等による育成策を実施しなければならないと考えている。

以上の様な考え方にに基づき、本校では各教職員の適性や要スキルアップ項目等を見極めた上で、「小山学園研修規定」ならびに「東京テクニカルカレッジ教職員研修方針」、「同 教員研究方針」に基づき、研修・研究計画の立案や実施を行っている。具体的な内容としては、主に企業や団体に依頼する形で実施される「専門性向上研修」や「教授法研修」、学内での集合研修が中心となる「教育界認識研修」などがあげられる。これらの研修は、年度計画に基づいた校長指示により実施されるが、教職員自らが自己研鑽に務めることを目的として自ら研修・研究の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めることがある。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： AI Agent Bootcamp	連携企業等： グーグル ジャパン合同会社
期間： 2024年 6月 24日 9:00～12:10(オンデマンド)	対象： 常勤教員

内容	生成 AI や AI エージェントをテーマにした Google と Google Cloud の様々なプロダクトを学べるセミナー	
研修名:	AWS Summit Japan 2024	連携企業等: アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
期間:	2024年 6月 24日 9:00~12:10(オンデマンド)	対象: 常勤教員
内容	AI アプリ開発プロジェクトの始め方	
研修名:	AWS Summit Japan 2025	連携企業等: アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
期間:	2025年 6月 25日 9:00~12:10(オンデマンド)	対象: 常勤教員
内容	AWS 製造業アワード受賞! AI と IoT で進化する製造の現場改革	
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>		
研修名:	やる気を引き出す魔法の言葉がけ ~PEPTALK~	連携企業等: Dream Support
期間:	2024年7月26日13:30~16:40	対象: 常勤教員
内容	肯定的に指導するスキルを身につける	
研修名:	グロービス受講体験セミナー~クリエイティブ・シンキング編~	連携企業等: 株式会社グロービス
期間:	2024年9月18日(水) 14:00~16:00	対象: 常勤教員
内容	講師が一方的に講義するのではなく、受講生に徹底的に考えさせ、発言を求めるスタイルを学ぶ。	
研修名:	~VUCA×Z世代の育成ニューノーマル~今の時代の新人若手の生かし方・育て方	連携企業等: リクルート マネジメントソリューションズ
期間:	2024年09月19日(木) 10:00~11:30	対象: 常勤教員
内容	VUCAという今の時代に必要な「育てたい力」と「育て方」について	
<b>(3) 研修等の計画</b>		
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>		
研修名:	生成AIとロボティクス	連携企業等: (株)デンソー
期間:	2025年07月10日(木) 11:45 ~12:30	対象: 常勤教員
内容	生成AIとロボティクスを掛け合わせることの意義と可能性について	
研修名:	ロボットとAIで実現する設備点検DX	連携企業等: ugo(株)
期間:	2025年07月10日(木) 13:30 ~14:15	対象: 常勤教員
内容	巡回点検・異常検知、予知保全について	
研修名:	Japan Robot Week 2025	連携企業等: 一般社団法人日本ロボット工業会・日刊工業新聞社
期間:	2024年11月19日 09:00 ~ 17:00(オンライン)	対象: 常勤教員
内容	商業・産業用ロボットの最新システムや 関連 機器の展示	
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>		
研修名:	日本の教育はどこへ向かうのか~探究・主体性・非認知能力のゆくえ~	連携企業等: コアネット教育総合研究所
期間:	2025年8月19日 10:00~16:00	対象: 常勤教員
内容	「これからの学校」「これからの教育」のあり方について	
研修名:	生徒たちのやってみたいを引き出す探究デザイン~やりたいことを実現する探究活動の実践とは~	連携企業等: ミッドナイトブラックファスト株式会社
期間:	2024年9月18日(水) 14:00~16:00	対象: 常勤教員
内容	生徒たちのやってみたいを引き出す探究デザイン	

研修名:	応用行動分析に基づく行動問題の対応法セミナー	連携企業等:	合同会社ABC研究所
期間:	2025年8月3日 13:00～16:00	対象:	常勤教員
内容	行動問題の原因と効果的な支援を、応用行動分析(ABA)について		

研修名:	「第13回教育活動報告会」	連携企業等:	コンソーシアムTokyo
期間:	2025年9月18日	対象:	常勤教員
内容	当校当科の教育内容・教授法の充実に向け、加盟専門学校各校の教育活動を知る		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、職業教育を旨とする高等教育機関として、各業界において必要とされる人材の育成を関係業界等のニーズを踏まえ目標化する。教育成果を評価しているかについて適切な説明責任を果たすために、どのような理念のもとで教育活動を行なっているのか、また業界との相互の課題やニーズ等の共有化に向けて、教育活動のみならず学校運営の状況を公表する。そして、関係する企業、職能団体等、卒業生、在校生保護者、地域の方や自治体関連部署等の評価を受け、その結果に教育活動、学校運営の改善を図ることにより高等教育機関としての責任を果たすことを目的に学校関係者評価を行うことを基本方針とする。なお、評価者として企業役員、関連諸団体の役職者等に積極的に参画いただき、職業に必要な知識・技能・態度に係わる質保証の視点を踏まえた評価の精度を上げることも方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準2 学校運営
(3) 教育活動	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準3 教育活動
(4) 学修成果	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準4 学修成果
(5) 学生支援	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準5 学生支援
(6) 教育環境	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準7 学生の募集と受入れ
(8) 財務	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準8 財務
(9) 法令等の遵守	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準9 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン(専門学校等評価機構)」に準拠する形で「自己評価報告」を行っており、これを元に学校関係者評価委員会を開催している。委員会において指摘された箇所については、校として必要な取り組みは校長、学科として必要な取り組みは科長を責任者として、指摘事項の改善を図ることとしている。

例えば、2000年以来専門知識・技術の習得のために90分間毎の授業評価を実施するなど履修改革に取り組んできたが、その一方自ら問題を発見し解決する能力などの開発も重要であるとの指摘を受けてきた。そうした指摘をふまえて、PBLの手法を取り込んだ問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト(以下RJP)」の創設・実施に取り組んできた。RJPに関しては、半期に一度の委員会において進捗状況を報告するとともに、年度末に成果報告を高覧いただき、その都度意見をいただき改善に努めてきた。その成果として、学科横断・企業連携による学内カフェ開設を達成し、学生の問題解決能力等の向上を図ることができた。また、RJPを正規科目として登録する際には、PBLにおいてそのプロセスを公正に評価する方法が必要との指摘を受けて、授業毎・期毎・年度毎の3種類のルーブリック評価票を開発し、学習の成果ならびに学生の成長を見える化することに取り組んできた。

に卒業生の成長を促せる役割を十分に果たしてきている。

また卒業生委員からは、卒業生と学校、卒業生同士のつながりが弱いとの指摘を受けた。それをふまえて、平成28年度から卒業後1年・5年・9年経った卒業生を対象に「卒業生調査」を実施、学習成果を確認するとともに学内改善の基礎資料とすることとした。また同時に同窓会の活性化に向けてあらためて取組みを開始した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
常井 順司	株式会社 Mizuiri	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
澤坂 智之	株式会社 Artisan	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
藤沼 俊則	フォーネスライフ株式会社 NECソリューションイノベータ株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
楡井 真実	建築監督科 保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	保護者
阿井 恵美	ゲームプログラミング科 保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	保護者
中山 典隆	有限会社 イプシロン 東京商工会議所 中野支部	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
杉山 司	桔梗ICTパートナーズ株式会社/特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
佐々 義子	特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
島田 祐輔	エーピージーエム デザインアトリエ 法政大学大学院デザイン工学研究科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
杉岡 充敏	株式会社グッドニュース	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
松本 晴輝	株式会社進研アド	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
三浦 勝寛	株式会社リクルート	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
吉田 典子	株式会社ビーアライブ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
岸 哲也	東中野五丁目小滝町会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	地域

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法 : (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ (その他) (自己評価報告書)

公表時期 : 毎年7月31日を原則とする。

<https://tec.ttc.ac.jp/school/disclosure/kihoniho>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、実践的な職業教育を行う教育機関として、関係業界等のニーズを踏まえ、どのような理念・目的・目指す人材像等を掲げて取り組んでいるか適切な説明を行う必要があるという認識のもと、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた評価項目をもって、学校関係者に情報公開を積極的に行い、学内外に対して普遍的判断のつく教育活動の透明性の証明の為に情報を公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
-----------	-----------

(1)学校の概要、目標及び計画	テクニカルHP > 学校案内 > 教育理念 学園HP > 学園概要
(2)各学科等の教育	テクニカルHP > 学科紹介
(3)教職員	テクニカルHP > 公開情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	テクニカルHP > 就職・資格 > 就職サポート体制
(5)様々な教育活動・教育環境	テクニカルHP > 当校が選ばれる理由 学園HP > 教育への取組み
(6)学生の生活支援	学園HP > 入学案内・奨学金 > 奨学金/融資制度 テクニカルHP > キャンパスライフ テクニカルHP > 入学案内 > 学生寮のご案内
(7)学生納付金・修学支援	学園HP > 入学案内・奨学金 テクニカルHP > 入学案内 > 学費・学費サポート
(8)学校の財務	テクニカルHP > 公開情報
(9)学校評価	テクニカルHP > 公開情報
(10)国際連携の状況	学園HP > 学園概要 > 海外姉妹校・協力校 テクニカルHP > キャンパスライフ > 海外短期留学研修SISP テクニカルHP > キャンパスライフ > 建築・インテリア海外研修
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法  
<https://tec.ttc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 IoT+AI科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任
1	○			情報リテラシー	この科目では、学内ネットワークを利用できるように設定し、コミュニケーションツールとして活用できるようにします。またわが身を守るために必要なセキュリティの知識、著作権の知識、SNSへの投稿やメールを打つときの社会的な常識についても学	1 ①	15	1	○			○		○	
2	○			PCリテラシー1	この科目では、Word、Excel、PowerPointの基本（一般）的な使い方を学習します。色々な基本業務の中で、その場面に応じた使い方や表現ができるようにします。	1 ①	30	2	○			○			○
3	○			PCリテラシー2	この科目では、コンピュータ5大装置それぞれの関係を理解した上で、各装置の特徴・動作を深く掘り下げ、コンピュータシステム全体の動作原理を理解します。	1 ①	30	2	○			○			○
4	○			産業一般1	この科目では、政府統計e-Statのデータを元に、日本の各産業の特徴を可視化し、理解を深めます。	1 ③	15	1	○			○			○
5	○			産業一般2	この科目では、世の中に存在する商品や工業製品のデザインについて学びます。また、プロダクトの企画・開発におけるデザインプロセスにも触れていきます。	1 ⑤	15	1	○			○			○
6	○			アルゴリズム1	この科目では、コンピュータでデータを扱うための基礎知識である基数変換やビット演算、プログラミングの考え方の基礎となるソートアルゴリズム、統計学の基礎となる確率について学習します。	1 ④	30	2	○			○			○
7	○			アルゴリズム2	この科目では、統計的検定の手順と注意点、各種検定の種類を学習し、データや用途に応じた適切な検定手法を選択できるよ	1 ⑤	30	2	○			○			○
8	○			IoT技術	この科目では、IoTを支えている通信技術、センサー技術を知ることと、現在様々な業界で使われているIoTシステムを知ることと、今後のIoT開発に活かせるようにする。また自ら技術を組み合わせ、問題発見と解決の方法を探ります。	1 ③	30	2	○			○		○	
9	○			IoT戦略	この科目では、企業の活動を理解した上で、マーケティングの手法、システム戦略の手法、技術開発に関する戦略を意識した手法などを理解していきます。	1 ⑤	15	1	○			○			○

10	○		ネットワーク技術	この科目では、通信の形態、データの伝送方式、LANやWANの仕組み、インターネットにおける通信規約を理解し、インターネットを用いたデータ収集や制御のためにIoTに用いられる通信方式、無線通信規格を学習します。	1 ③	30	2	○			○								○	
11	○		シングルボードコンピュータ入門	この科目では、代表的なシングルボードコンピュータを使い、インストールや基本操作、LEDとスイッチを使った入出力を働かせるプログラムを作成します。	1 ①	15	1	○			○									○
12	○		セキュリティ基礎	この科目では、データを盗み出す手口を知り、これらから情報を守り安全な通信手法を学習します。また安全な通信や情報の記録を行うために必要な暗号化手法や、送信者受信者を特定するための認証方法を学習します。	1 ⑤	30	2	○			○									○
13	○		問題発見解決技法	この科目では、問題発見解決実習に向けて、チームでの開発手法を学びます。	1 ③	15	1	○			○									○
14	○		標準化	この科目では、システム設計における標準的な図式手法（UML、DFD、E-R図等）を学びます。	1 ②	15	1	○			○									○
15	○		プロジェクトマネジメント	この科目では、コンピュータシステム開発プロジェクトにおけるマネジメントとサービスマネジメントについて学習します。	1 ④	15	1	○			○									○
16	○		法律	この科目では、経営や会計などの一般知識を学んだうえで、システム開発に関わりの深い法律について学びます。	1 ②	15	1	○			○									○
17	○		IoT設計	この科目では、IoTシステム設計において、これまでに学んだ要素技術をどのように組み合わせるべきかを学びます。	2 ③	15	1	○			○									○
18	○		デバイス実習1	この科目では、ローコードツールを使ってIoTシステムを構築することで、IoTプロトタイプングの手法を学びます。	1 ②	30	1				○	○								○
19	○		デバイス実習2	この科目では、Arduinoを例にプログラミングを行い、IoTを構成するための代表的なデバイスについて、その特徴および開発方法、手段と手順について学習します。	1 ②	30	1				○	○								○
20	○		デバイス実習3	この科目では、JavaScriptを学習し、obnizによるIoTシステムを作ります。	1 ⑤	30	1				○	○								○
21	○		プラットフォーム実習	この科目では、クラウドサービスの概念・特徴を学び、代表的なクラウドサービスAmazon Web Service (AWS) を使ってパブリッククラウドを学びます。	1 ③	30	1				○	○								○
22	○		データベース実習1	この科目では、AWSを利用方法を復習しながら、Amazon RDSを利用してデータベースを構築し、データを扱う方法を学びます。	1 ⑤	30	1				○	○								○

23	○		データベース 実習2	この科目では、1年次に学んだクラウドデータベースへの保存処理と同等のことができるアプリケーションを、サーバーを構築するところから、すべてスクラッチで開発します。	2 ①	30	1			○	○						○	
24	○		データベース 実習3	この科目では、データベースとは何か、RDBMSとは何かを理解した上で、MySQLデータベースをインストールし、データを取り出すためのSELECT文の基本であるSELECT句、WHERE句、ORDER BY句の使い方を学習します。	2 ②	30	1			○	○							○
25	○		データベース 実習4	この科目では、SELECT文の中でも重要度の高い結合、副問い合わせ、集合演算を学習します。	2 ③	30	1			○	○							○
26	○		データベース 実習5	この科目では、ストアドプロシージャやトランザクションについて学習します。また、データベース設計の基本技術である正規化について学習します。	2 ④	30	1			○	○							○
27	○		機械学習実習 1	この科目では、機械学習の概要を知り、教師あり学習のアルゴリズムの種類を学びます。機械学習の一通りの流れを体験します。	2 ①	30	1			○	○							○
28	○		機械学習実習 2	この科目では、教師あり学習、および教師なし学習のアルゴリズムの種類を学びます。また、アンサンブル学習についても学習します。	2 ②	30	1			○	○							○
29	○		セキュリティ 実習1	この科目では、Webアプリケーションにおけるセキュリティ脅威とは何かを知り、実際にWebアプリケーションへの攻撃を体験することでセキュリティ対策の必要性を学びます。	2 ④	30	1			○	○							○
30	○		セキュリティ 実習2	この科目では、開発中のセキュリティ診断やセキュリティ管理策の実装を知るために、いくつかの攻撃手法とその防御方法を学びます。	2 ⑤	30	1			○	○							○
31	○		センサー回路 実習1	この科目では、OPアンプを使ったアナログ回路、ANDやORなどのICを使った論理回路、トランジスタを使ったスイッチング回路をブレッドボード上で作成し、動作を確認します。	1 ③	30	1			○	○							○
32	○		センサー回路 実習2	この科目では、コンピュータに直接データをデジタル入力できる「フォトインタラプタ」などを始め、各種センサと通信することで自然界の多様なデータを扱う技術を身に付けます。	1 ④	30	1			○	○							○
33	○		スマートフォン 連携実習	この科目では、Web標準技術を用いて、スマートフォンのデバイス機能呼び出し、取得したデータを送信する仕組みを学びます。	2 ⑤	30	1			○	○							○
34	○		HTML&CSS	この科目では、HTML、CSSの基本文法を学び、簡単なWebサイトを作成します。	1 ④	30	1			○	○							○
35	○		C言語実習1	この科目では、プログラムの作成方法、順次・選択・繰り返しの基本文法を学習し、判定処理、繰り返し処理ができるようになります。また2重ループを使った処理が行えるようになります。	1 ①	30	1			○	○							○

36	○		C言語実習2	この科目では、関数とポインタの概念を理解し、変数とメモリの関係を意識してプログラミングできるようにします。	1 ①	30	1			○	○							○	
37	○		C言語実習3	この科目では、メモリ上に並んだ変数の集まりである「配列」を学び、メモリとアドレスに関する理解を深めます。	1 ②	30	1			○	○								○
38	○		C言語実習4	この科目では、構造体の使用方法を学び、メモリ操作、ファイル操作のプログラミングを作れるようにします。また「構造化」を意識したプログラミングができるように	1 ②	30	1			○	○								○
39	○		オブジェクト指向言語実習1	この科目では、Pythonの開発環境を構築し、基本文法について学習します。	1 ③	30	1			○	○								○
40	○		オブジェクト指向言語実習2	この科目では、組み込み関数の利用方法を学び、関数型プログラミングの基礎を学びます。また、データのやり取りの際に重要となるファイル操作の方法も学びます。	1 ③	30	1			○	○								○
41	○		オブジェクト指向言語実習3	この科目では、Pythonは関数型言語として扱うこともできれば、オブジェクト指向型言語として扱うこともできます。本科目では、Pythonによるオブジェクト指向プログラミングを学びます。	2 ②	30	1			○	○								○
42	○		オペレーティングシステム	この科目では、Linuxのディストリビューションの種類や、コマンドによる操作、viなどのエディタ、パーミッション、パッケージ管理等について学び、Linux OS上で演習します。	1 ②	30	1			○	○								○
43	○		アジャイル開発	この科目では、アジャイルソフトウェア開発技術者検定試験Lv.1を目標とし、アジャイルソフトウェア開発についての考え方や手法を学習します。	2 ④	30	1			○	○								○
44	○		Webアプリケーション開発1	この科目では、JavaScriptフレームワークであるReactの利用方法を学び、Webアプリケーション開発における標準的なフロントエンド開発技法を理解します。	2 ①	30	1			○	○								○
45	○		Webアプリケーション開発2	この科目では、Webアプリケーション開発フレームワークDjangoを利用し、基本的な機能を持つWebアプリケーションを開発します。	2 ②	30	1			○	○								○
46	○		Webアプリケーション開発3	この科目では、Django REST Frameworkを用いたAPIの開発や、リアルタイム通信を実現するためのDjango Channelsの使い方、そしてDjangoにおけるその他の拡張機能を学びます。	2 ③	30	1			○	○								○
47	○		IoT開発実習1	この科目では、AWS IoT Coreを使用したIoTシステムを構築し、システム全体の設計を理解します。また、Dockerの基本についても	2 ④	60	2			○	○								○
48	○		IoT開発実習2	この科目では、画像処理の基礎を把握し、深層学習の画像処理を学習しながら、画像処理・物体識別するIoTシステムを構築しま	2 ⑤	60	2			○	○								○
49	○		ネットワーク実習1	この科目では、IoTシステムで利用される通信方式を知り、各通信方式でデータを送受信やそれに関するデバッグの実習を行います。	2 ①	30	1			○	○								○

50	○		ネットワーク 実習2	この科目では、ネットワークの種類、伝送方式、通信プロトコル、サービスなどの基本技術を理解していきます。	2 ②	30	1			○	○						○	
51	○		ネットワーク 実習3	この科目では、ネットワークエッジで使われるルータ・L2/L3スイッチの一般的な機能について学習します。	2 ③	30	1			○	○							○
52	○		Pythonプログラ ミング実習 1	この科目では、Pythonと周辺ライブラリを用いて、基礎的な統計検定を行う方法を学びます。	2 ①	30	1			○	○							○
53	○		Pythonプログラ ミング実習 2	この科目では、テキストデータを扱う上で必要となる特有の処理方法や可視化の方法などを、mecabというライブラリを用いて身に付けます。	2 ②	30	1			○	○							○
54	○		AI実習1	この科目では、ディープラーニングの手法である畳み込みニューラルネットワークの仕組みを理解します。	2 ③	30	1			○	○							○
55	○		AI実習2	この科目では、深層学習フレームワークを利用して、ディープラーニングをPythonで実装します。	2 ④	30	1			○	○							○
56	○		ロボット実習	この科目では、ロボットを取り巻く技術は、センシング、制御、アクチュエータ等です。この科目では、ロボット制作において、どんな技術要素を取り入れれば、ロボットを作ることができるかを学習していきます。	2 ⑤	30	1			○	○							○
57	○		リアルジョブ プロジェクト 1 (RJP1)	この科目では、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組めます。	1 ①	30	1			○	○	○	○					
58	○		リアルジョブ プロジェクト 2 (RJP2)	この科目では、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提	1 ②	30	1			○	○	○	○					
59	○		リアルジョブ プロジェクト 3 (RJP3)	この科目では、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	1 ③	30	1			○	○	○	○					
60	○		リアルジョブ プロジェクト 4 (RJP4)	この科目では、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	1 ④	30	1			○	○	○	○					
61	○		リアルジョブ プロジェクト 5 (RJP5)	この科目では、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組めます。	2 ②	30	1			○	○	○	○					
62	○		リアルジョブ プロジェクト 6 (RJP6)	この科目では、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	2 ③	30	1			○	○	○	○					

63	○		リアルジョブプロジェクト7 (RJP7)	この科目では、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	2 ④	30	1			○	○	○	○
64	○		リアルジョブプロジェクト8 (RJP8)	この科目では、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	2 ⑤	30	1			○	○	○	○
65	○		校外学習1 (問題発見解決実習1)	この科目では、問題発見解決技法の知識を活かし、身の回りにある問題を抽出し、どのようにすれば解決ができるかをまとめ、解決策を導きます。またそれをプレゼンテーションしていきます。	1 ③	30	1			○		○	○
66	○		校外学習2 (問題発見解決実習2)	この科目では、問題発見解決技法の知識を活かし、身の回りにある問題を抽出し、IoTの技術を活用して解決していく方法を導きます。また解決方法をどのようにIoT化するのかをまとめていきます。	2 ③	30	1			○		○	○
67		○	海外短期留学研修1	この科目は、アメリカの提携大学でおこなわれる、2週間の海外研修です。現地の大学と共同でつくる独自プログラムをとおして異文化に触れ、新しい世界を知り、自分の可能性を広げます。	1 ②	90	3			○		○	○
68		○	海外短期留学研修2	この科目は、アメリカの提携大学でおこなわれる、2週間の海外研修です。現地の大学と共同でつくる独自プログラムをとおして異文化に触れ、新しい世界を知り、自分の可能性を広げます。	2 ②	90	3			○		○	○
69		○	建築・インテリア海外研修1	この科目は、ヨーロッパの都市へ行き、新旧の建物や街並み、歴史と文化に触れ、現地の人との交流をおこない、新しい世界を知り、自分の可能性を広げます。	1 ⑤	90	3			○		○	○
70		○	建築・インテリア海外研修2	この科目は、ヨーロッパの都市へ行き、新旧の建物や街並み、歴史と文化に触れ、現地の人との交流をおこない、新しい世界を知り、自分の可能性を広げます。	2 ⑤	90	3			○		○	○
71		○	国内建築研修1	この科目では、問題発見解決技法の知識を活かし、身の回りにある問題を抽出し、IoTの技術を活用して解決していく方法を導きます。また解決方法をどのようにIoT化するのかをまとめていきます。	1 ③	30	1			○		○	○
72		○	国内建築研修2	この科目は、国内の様々な都市へ行き、新旧の建物や街並み、歴史と文化に触れ、新しい世界を知り、自分の可能性を広げます。	② ③	30	1			○		○	○
73		○	国内環境研修1	この科目は、国内の様々な都市へ行き、新旧の建物や街並み、歴史と文化に触れ、新	1 ⑤	60	2			○		○	○